

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 18 号 (9 月 26 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1 辛くも残留を決めるも・・・

9 月 17 日 (土)、19 日 (月)、23 日 (金) と Y1 終盤の 3 連戦が行われました。3 連戦前時点で、山東は勝ち点 13 で 5 位。6 位は勝ち点 12 の山形中央、7 位 8 位は勝ち点 7 の山形城北と新庄東 (得失点差で城北が 7 位)。昇格の不可能な山東は、何とか早めに残留を決めたいところ。

17 日は日大山形 G で鶴岡工業と対戦。鶴工には、今期 Y1 での前の対戦にて鶴工スーパーエース FW の大爆発によって大量失点で敗れている。そして、怪我でそのスーパーエースはこの試合、欠場。様々な意味で勝利したいめぐり合わせ。さて前半、どっちつかずの状況の立ち上がりのなか、鶴工が前線に斜めにロングパスを送る。すると、鶴工 FW のブルアウェー¹に置き去りにされた山東 1 年センターバック CB と、ボールが自分のところに近づいてくる位置取りをしていた 1 年左サイドバック SB とが、ボールのお見合い。両者のコミュニケーションも全くない「有り得ない凡ミス」から、鶴工の長身俊足 2 年生 FW にずばりとボレーで決められ、呆気なく失点。簡単に、しかも、コミュニケーションなくマークを離す CB の守備力の低さにはまだ我慢できましたが (ただ力不足なだけで)、山東ゴールに直接関係のないアウトサイドに張っている相手選手へのマークに気を取られ、CB が中央で剥がされるのをただオロオロ見ていた左 SB には、控え選手を含めベンチ一同激昂。タイミング的には、左 SB がしっかりボールに寄せれば何のことはないクロスボールだっただけに、その判断の悪さ、カバーリングの意識の欠如、危険を察知する能力の欠如、そして CB とコミュニケーションをはからない消極性には目を覆うばかり。監督の起用責任が問われる失点シーンとなりました。その後、少しずつ山東も盛り返すも一進一退。後半に入り山東優勢の時間が多い中、左サイドハーフ SH マンサク²がセンターリングと思わせる意表を突くカーブシュートを鮮やかに決め、同点とする。すると、山東押せ押せとなり「追加点を早く決めろ～」と叫ぶ展開が

¹ ボールから離れる動き。この動きをされると、マーカはマーク (すべき相手選手) とボールを同一視野に収めることが難しくなるため、マークを離しやすくなる。逆を言えば、対応の良い DF であれば、相手選手のブルアウェーにも堅実に対処できる。

² 山形東サッカーOB会 HP の管理人であられるゴトー編集長は、最近、マンサクという呼び名を HP 上で使用しております。タイ人ボクサー (ムエタイ選手) にいそうな名前だからでしょうか (それはそれで謎)。ちなみに、マンサクの名は当然として、マンサクという名も本名とは全く関係のないもので、卒業生のオオクボ (河合塾 1 年生) がそのあだ名の命名者です。どうやら、マンサクが入部の挨拶をした際の「コマ　ク」との本名がマンサクと聞こえた、という理由でそのようにつけられたそうです。

多くなるが、好事魔多し 右サイド(山東左サイド)から斜めにドリブル突破され、ワンツーからシュートそしてゴールを許し、再び突き放される。ペネトレーション=貫通(突破)という言葉がぴったり当てはまる、敵ながら天晴れの得点でした。そしてそのまま程なくしてタイムアップ。勝ち点3を取りに行き前掛かり、勝ち点1すら失う最悪の展開。稚拙と言えれば稚拙ですが、勝ち点3の欲しい残留争い中のチームが果敢に攻めた結果なだけに、「守りを重視すればよかった」とまとめたくはない。ともかくも悔しい敗戦となりました。

その後17日、メトロポリタンにて保護者会の皆さまが選手権・県新人へ向けた激励会を開いてくださりました。OB会からは清野会長、後藤報道局長、鈴木卓さん、芹川さんの4名が出席して下さり、温かい激励を頂戴しました。顧問サイドからは、芹川整骨院所属にして山東サッカー部トレーナー兼鬼フィジカル・コーチの名和さんが「夜の部」初参加。激励会の日には勝って祝杯を上げさせる伝統が以前はありましたが、最近の現役生には(というか監督の責任ですが)そこらへんの思いやりが欠けている。激励会初参加の鈴木卓先輩からはとてもとても熱い激励を頂き、それに負けじと?後藤報道局長からも選手諸君へのいつも以上に熱い言葉を頂戴いたしました。選手諸君の決意の言葉は、いつになくユーモアに欠け、真面目な(好意的にとらえれば真剣味のある)コメントが多かったです。どうしたんでしょうか? ユーモアのセンスと敵をあざむくサッカーセンスは比例する、とサッカーの神様ペも述べています(ウソ)。個人的には、1年ナラオカが、ベビーフェイスの顔ながら重低音のバリトンボイスで「1年4組ナラオカです」と始めたのが、一番おもしろかったです・・・ともかく、悔しい敗戦の後だけに「パーッと」という訳にはいきませんでした。とても楽しいひと時でした。保護者会の皆さま、ありがとうございました。

19日は山商Gにて山商と対戦。地区新人で敗れている相手ですが、あれはあれ。17日に新東が山商に勝ち、勝ち点差を3にしてくただけに、尻に火が付いてきた山東、何とか山商に勝たなければならない。前からガンガンプレッシャーに行き、山商のテクニック・状況判断力を発揮させない展開に持ち込めれば、山東得意の「技術の差を得点差に反映させない粘り強い戦い」も可能となる。試合が始まると、山商優勢だが山東も粘り強く戦っている。ただ、一瞬の隙を山商3年FWに決められ、前半0-1。後半、1年リクの万人をあざむいた(自分も含めて?)アシストからゴメが左足で決め、同点にするも、同じ山商FWにミスを咎められ1-2とされ、そのままタイムアップ。粘り強く戦いましたが、相手ドリブルに対する対応、そして、CKや低い位置でのスローインを与えないクリアの技術に課題を残しました(奪い切るディフェンス=体を入れるディフェンスができていないことが、それらの課題の根にある問題点です)。そして、その日の山商G第二試合で新東が鶴工に勝ち、とうとう勝ち点で山東、新東が並んでしまう・・・。

23日は山形中央Gにて山形中央(以下、中央)と対戦。中央は前年までプリンスリーグにいた強豪ですが、主力が1・2年生で、今期苦しんでいる。最終節を前に、両チームの勝ち点差は2。山東勝利で山東の5位残留が決定する(その場合、中央は6位以

下確定で、24日新東勝ちで中央が7位となる。山東は引き分け以下で、24日東海大山形 新庄東のY1最終戦の結果待ちということとなる。山東としては、自力で残留を決めるために最終節の勝ち点3が欲しいのですが、さりとて前掛かって打ち合いを演じ敗れるとなると、新東に「引き分けもあり」との状況を与えてしまう。力が不安定、中途半端な山東としては、試合に向かう姿勢の按配が難しい。とりあえず、守備からしっかり入る意味もあり、自陣にリトリート（撤退）してスペースを消してカウンターから勝機を狙う作戦を採る。すると前半、山東がリトリートしているだけに中央のボール支配率の相当高い展開が続くも、ゴール前で決定的な形は作らせず、中央の選手にロングシュートや角度のないところからのシュートを打たせて、それほど冷や冷やすることもない。してやっつかりの展開。前半途中、ペナルティエリア内で右からの中央のセンタリング（中央サイドからすれば左からのセンタリング）を胸トラップしに行き間に合わなかった2年山東CBがハンドしてしまい、PK献上。正直、彼のこのハンドの反則、練習でのものも含め何度も何度も見てきただけに、ベンチでは「またやったか」とあきれ顔でふてくされる。しかし、GKサカグチがそのPKをがっちり止め、流れを中央に渡さないファインセーブ。確かに中央の選手のPKは緩いボールでしたが、それにしても読みが外れればゴールインしていただけに、ナイスセーブ！！ ともかく、前節のミスを取り返す働き（その後も、特に後半、サカグチは当たっていました）。前半を0-0で折り返す。後半もディフェンシブに布陣する作戦を変えない。すると後半、サイドバックまで攻め上がり、CBだけになりがち（逆サイドバックの絞り・下がりが遅れ気味な）中央の最終ラインに山東FWハムとゴメが食らいつく形から、散発的ながらシュートまで行くことができるようになってくる。往々にして耐えてゴールを守っているチームがカウンターから先制してしまうことはあるのですが、右サイドのリクの突破からは決めるだけという決定的シーンも飛び出してくると、山東に風が吹いてきた印象がある。そんな中、相手ベンチから飛び出す「10番（ゴメ）だけ（何とかしろ／何とかしてれば大丈夫）」との声に発奮を促していたもう一人のFWハムがやってくれました！！ ドリブル突破を狙うもスピードがないだけに切り返しているうちに相手に囲まれて手詰まりの状態となるが、センドウさん譲りの破れかぶれトゥキックを放つと、虚を突かれた中央1年GK（この選手は良い選手です）も動けないコースで転がりボールは中央ネットを揺らす。山東先制！！ しっかり守って相手を焦らした上でカウンターから得点するとは、まさに狙い通りの展開。あとは守るだけ、であります。残り時間は20分ほどある。いや～、勝っている時の残り時間は長い長い。結局、残り10分ほどのところでロングボールを頭で合わせられ、同点にされる。同点にされ逆転されるのは、今期よく見た最悪の形なだけに、いやな予感がしましたが、サカグチのファインセーブやショウタのスライディングによるシュートブロック等があり、何とか引き分けに持ち込む。正直、個の能力に差があったため、打ち合いを演じていたら、地区新人のように敗れていたことでしょう。Y1残留を自力で決めることができなかつたとはいえ、そんな実力差のなか引き分けによる勝ち点1を得たことは大きいと感じておりました。そして、その1が、結果的に見て、翌日の新庄東にプレッシャーとなったのです。

24日は日大山形Gにて、Y1最終戦の東海大山形-新庄東戦が行われました。私は見に行かないつもりでしたが、やはり気になり、後半途中に子連れで行ってみると、い

がとても多くびっくりしました)。引き分け、または、東海の勝ちで山東残留、新東勝ちで新東残留・山東降格という Y1 最終戦³。他のチームの不幸を願うようで申し訳ないのですが、東海を応援してしまう。後半途中、会場に着いて、応援中の東海の選手に聞いてみると、引き分けとのこと。なに～、これはマズイことになりそうな・・・などと感じ、戦況を見つめる。たしかに東海押し気味で、決定的チャンスを多く作っているのですが、新東もしぶとく粘っており、そして何より時折見せるカウンターがとても鋭い！ここ最近 Y1 で 2 連勝は伊達ではないことを感じさせる。結局、終盤に東海が PK を獲得し、それを決めて東海 1 - 0 で試合終了。山東残留が他力にて決定する。ただし、素直に喜べない・・・やはりこのような形の残留は、幸と不幸が裏表になっており複雑な気分。新東には前日山東の上げた勝ち点 1 が重くのしかかったのではないかと推察される。だって、引き分けで残留であれば、もっと守備に全力投球(蹴球?)できたはず。帰り際、新東の T 宮先生と行き合うと、やはり同日開催できなかった最終節の日程を嘆いておりました。もし、同日開催で山東の結果を知らなかったら、新東はもっとのびのび戦えて結果も変わっていたかもしれませんから。

ともかくも、日大山形、山形商業、東海大山形、鶴岡工業、山形中央、山形東、新庄東、山形城北の順で今期 Y1 は終了。新東、城北が Y2 に降格、日大はプリンスへの昇格をかけ、11 月 12 日(土)に秋田第一代表と昇格決定戦を戦うこととなります。日大山形の皆さん、頑張ってください。OB 会の皆さま、保護者の皆さま、Y1 での応援ありがとうございました。特に激励会以降の保護者の皆さまの応援はとても温かく、そして熱いもので、選手の後押しにかなりなっていました。保護者の皆さまが、「なんでヘディング競らないんだ、ちゃんと競れ」なんて言って下さると、顧問がそう言う必要もなくなって、ベンチで穏やかな気持ちで戦況を見つめることができました。ぜひ今後とも熱い応援をよろしくお願いします。いや～、それにしても今期の Y1 は疲れしました・・・。

第2回進学校大会 開催！

10 月 1 日(土)、2 日(日)蔵王坊平にて第二回進学校大会が開催されます。これは山交グループの協賛を得て昨年より開かれるようになった大会で、昨年は鶴岡南の優勝。1 年間山交杯(優勝カップ)を鶴南が保持しました。今年こそ優勝カップを狙います(去年も狙いましたが)。また、坊平よりも標高の低いところの猿倉でも B 戦の大会が開催されます。どちらも天然芝なので、選手権を 1 週間前に控えのびのびサッカーに励めます。応援よろしくお願いします(試合日程は OB 会 HP 上でご確認ください)。

³ 新東引き分けだと両チームは勝ち点 14 で並びますが、得失点差で山東が勝っており、山東残留となります。